

## あの手この手で、新しい大和市をつくろう

大和市協働推進会議

この記録は、大和市協働推進会議事務局ボランティア 中島双美さんの手によるものです。

### 『協働事業報告会 & 提案募集説明会』が行われました

2004年4月18日(日) 13:00~

今回の『協働事業報告会 & 提案募集説明会(以下、報告会 & 説明会)』は、新年度を迎え第2回協働事業提案の募集にあたり、さらなる市民活動や新たな協働事業をつむぎだしていこうという趣旨で開催されました。報告会 & 説明会では03年度に市民、市民団体と大和市とで協定が結ばれた協働事業の内容、その進行状況の報告、また活動をされている方々などからの意見や感想などをうかがっています。これら実際に行われている協働事業の内容や考え方を参考に、市民、市民団体、事業者、市が、つぎの新たな協働事業を生み出すきっかけになればと思います。

またもう一つの趣旨として今回の報告会 & 説明会は、協定が結ばれた事業が滞りなく運営されているか、市民に役立つものとなっているかなど、モニタリングする役割も担っています。市民、市民団体、事業者、市が一緒になって協働事業を見守っていくことで、よりよい導きがなされることと考えています。

さて、ここからは報告会 & 説明会で発表された概要をお伝えしていきます。当日の参加者は85名。市民の皆さんの関心の高さがうかがえ、大変有意義な時間であったことをまずお伝えします。

13:00

#### 報告会 & 説明会スタート

報告会 & 説明会は大和市協働推進会議(以下、推進会議)事務局のボランティアスタッフ関根さんの司会進行により始まりました。

#### 推進会議代表からの挨拶

推進会議 林代表から挨拶がありました。

- ・ 推進会議は「大和市新しい公共を創造する市民活動推進条例」をサポートする役割であること。
- ・ 協働事業という形で市民の提案をもとに、市民と行政が対等で事業を行うことは、初めての試みであろうということ。



- ・ 『報告会 & 説明会』は情報交換の場として活用してもらいたい。  
という趣旨のお話をされました。

### 当日のプログラムの説明

市民活動課・小山さんから、プログラムの説明がありました。

報告会については、まず、事務局で協働事業の概要を説明し、その後、提案者と市の担当者から報告をいただくという順番です。参加者の方々には報告の間に、事業に対する質問・意見・感想を付箋紙に記入してもらい、その付箋紙をボードに貼っていくという説明がされました。のちに、質問・意見・感想についての時間が設けられています。記入する内容は、質問・意見・感想のほか、事業の報告番号、名前。付箋紙は、受付で資料とともに渡されました。

もう一つの主題である説明会は、報告会のあとに行われることになっています。

ちなみに大和市役所は全面禁煙ですので、司会者から「喫煙は外で」というアナウンスがされました。

### 個別報告スタート

個別報告は最初に事務局 / 市民活動課・井東さんからパワーポイントで作られた資料をもとに説明がありました。

つぎに、提案者からの報告、市の担当者からの報告と続きます。その内容は事業に対する思いなど市民や市に訴えるものから、協働事業を始めてみての感想、よかった点、悪かった点などでした。事業そのものはジャンルが多岐にわたるため、いろいろな側面からの感想、問題提起が聞かれました。

個別報告の順番は協定締結順になっています。

報告のなかで聞かれた主な感想等は以下のとおりです。

#### 「青少年の自立支援事業」

**提案者：NPO法人かながわ就職支援研修センター**

**市の担当：産業振興課**

- ・ 2004年2月1日にキックオフフォーラムを開催したが、協働としてありがたかったのは場所の提供等である。
- ・ 予算面としてスポンサー探しが大変だった。
- ・ 受講生募集に際し、パンフレットの置き場所に苦心した。若い人はどこでみってくれるのだろうか。



- ・ 国や県ではフォーラムをやっても人が来ないだろうという意見だったが、150名の参加があり盛況であった。
- ・ 協働するにあたっては、仕事の内容や予算など、お互いのことをよく理解することが大事である。

### 「やまと太陽光発電設備設置プロジェクト」

**提案者：やまとエコデザイン会議**

**市の担当課：環境総務課、契約管財課**

- ・ 太陽光発電設置のための募金を続けている。(目標の100万円で15%を達成)
- ・ 市としては部をあげて募金活動に協力したい。
- ・ 市の担当者とは週に1回くらいの協議を行った。
- ・ 「市民エネルギー活用新聞」などをつくり、環境啓蒙活動を行っている。
- ・ 協働事業を始めて、行政は消極的ではないかと印象をもった。



### 「大和市新渋谷中学校学校開放事業」

**提案者：大和市新渋谷中学校学校開放管理運営委員会、渋谷きんりん未来の会**

**市の担当：生涯学習センター**

< 運営に関わられる方々の紹介がありました。渋谷地区にお住まいの方々が主でしたが、渋谷中学のPTA会長等、理事10人、スタッフ30人で構成されているということです。 >

- ・ 地域とのつながりを考え運営組織を発足したが、いくつかの団体・個人が関わってきたことで異なる考えが多く、そのすり合わせに苦労をした。その過程において、関わってこられた方々に迷惑をかけたこともあり、その点を反省している。
- ・ 学校開放の一環として、ようやく形になりつつあるところだ。生徒と地域が触れ合うことを大切にしたい。
- ・ 市民に学校を開放するという事は、セキュリティ面で相反することになるが、建物の工夫、スタッフの常駐などによりクリアしていきたいと考えている。



### 「渋谷（南部地区）土地区画整理事業における事業用地の景観美化事業」

**提案者：NPO法人ラブサポートセンター**

**市の担当：事業管理課、情報政策課**

- ・ 今年5月に花壇づくりがスタートする。
- ・ 広報活動として、高座渋谷駅等にポスターを貼る。自治会関係を主にチラシをポスティングした。
- ・ 反省点は、回数を重ねた協議が必要であったこと。問題になったのは、花壇に立ち入った人がケガをした場合どうするのか、ということなど。これは自己責任という判断である。
- ・ ボランティアには「新しい公共を支える市民活動保険」の加入などを行う。
- ・ 事業管理課では広報活動や会議室の貸し出しなどの点で協働した。
- ・ 情報政策課においては地域通貨「ラブス」のモデルケースとして考え、循環システムの構築に役立てていく。



### 「大和市の青少年に関する意識調査事業」

**提案者：共育ちプラザ～まんまの自分**

**市の担当：青少年センター**

- ・ 青少年の居場所づくりのために、まずは青少年の意識を知らずしてはできないという観点から調査を行うこととした。アンケートづくりの場面から青少年との話し合いをしていきたい。
- ・ 03年12月から月2回の協議を重ね、協定の締結となった。06年春には調査結果を発表する予定である。
- ・ 協働としては、青少年センターが文章のまとめをしてくれた点が大変ありがたかった。
- ・ 広報やまともに調査委員を募集する。現在募集中のため、スケジュールが前後することも考えられる。青少年の調査委員を5月中旬には集めたい。



### 「生涯学習センターホール、リフォーム検討プロジェクト事業」

**提案者：生涯学習センターリフォームプロジェクト検討会**

**市の担当：生涯学習センター**

- ・ はじめは提案者の思い付きだったが、03年9月にプロジェクトを発足。4月3日に1回目の話し合いがもたれた。



- ・ 検討会の人員から、それぞれの母体（舞台芸術、音響設備など）の意見を持ち寄った。
- ・ 広報やまと1月15日号で一般公募を行ったが、応募がなかった。提案者の紹介などによりチームの発足となった。
- ・ 今後、実施・保全計画を組み立てていく作業に入る。

### 「子育て家庭サポート事業」

**提案者：NPO法人ワーカーズ・コレクティブ チャイルドケア**

**市の担当：児童育成課**

- ・ 事業の必要性を市とともに整理できた。
- ・ 協働することで組織に対する信頼度を高くすることができる。行政のアピールで市民の信頼度が高まるという点から積極的支援が可能になるのでは。
- ・ 市からの問い合わせも増えている。
- ・ 大和市にはファミリーサポートセンターが存在しない。そのため補完的な役割を担ってもらえるのではと考える。
- ・ 児童育成課では、広報活動の推進を行う。また市の負担としてコーディネーター費用の支出などがある。



### 「移動制約者の外出介助サービス」

**提案者：NPO法人ワーカーズ・コレクティブ ケアびーくる**

**市の担当：障害福祉課**

- ・ 4月1日に協定を締結したばかりである。
- ・ 社会福祉協議会の福祉車2台では事足りる状態ではない。
- ・ いかに協働体制をつくっていくかが課題。
- ・ 障害福祉課では、広報活動、駐車場の確保など、活動環境をサポートしていく。
- ・ 介護保険からの利用者にもニーズが高く、位置づけを明確化しなければならない。



## 「人工透析患者ならびに身体障害者、高齢者の通院・外出支援サービス事業」

**提案者：NPO法人大和市腎友会**

**市の担当：障害福祉課**



- ・ 人工透析者の移送料金の低価格化の実現。
- ・ 協働として連携のあり方を課題とする。(と同様、

活動環境の整備が市の役割)

< 筆者注： は の移送サービスとリンクしている事業です >

14：45

**10分間の休憩** お茶、お菓子をいただきました。

14：55

### 全体討議スタート

進行は推進会議の内海委員。付箋に書かれた質問・意見・感想は、玉川まちづくりハウスの伊藤さんにより説明がされました。

説明、質疑応答は3事業ずつ進められ、

「青少年の自立支援事業」

「やまと太陽光発電設備設置プロジェクト」

「大和市新渋谷中学校学校開放事業」から開始されました。

続いて、

「渋谷（南部地区）土地区画整理事業における事業用地の景観美化事業」

「大和市の青少年に関する意識調査事業」

「生涯学習センターホール、リフォーム検討プロジェクト事業」

さらに、

「子育て家庭サポート事業」

「移動制約者の外出介助サービス」

「人工透析患者ならびに身体障害者、高齢者の通院・外出支援サービス事業」

の討議が行われました。

主な質問・意見・感想等を要約すると、

広報の問題

## 環境づくり

セキュリティの問題（個人情報保護など）

ネットワークづくり

（移動制約者の輸送サービス）の構造改革特区について

やはり、市民に周知するためには広報は欠かせない活動であり、その点の苦心が各事業でうかがえました。たとえば、の事業では受講者が集まらない、では検討会委員の応募がなかったことなどがあげられます。また、環境づくりも、まずは地域の人々の認知や理解によるものが大きいと考えられます。PRの仕方や、FACE TO FACE、HAND TO HANDで環境がつくっていけないだろうかという意見がでました。

セキュリティ面については、個人情報保護には誓約書等で明文化する必要性、施設のセキュリティには「みんなの目で守る」という考えが示されました。さまざまな面での危険が想定されるなかでのセキュリティ問題は今後の検討課題といえるでしょう。

一方、協働事業を進めていくには人材育成は欠かせない課題です。そのため、市民、市民団体、事業者、市の連携の必要性、ネットワーク化を早急に進めるべきとの意見が出ました。

## 協働事業全体について

参加者から協働事業全体についての意見・質問も出していただきました。そのなかに「協働事業を進めるなかで損害が生じた場合に、市と事業者の責任分担はどうなっているのか」という参加者の質問がありました。これにつき、協働推進会議林代表がお答えになりました。

⇒ 協働事業は協定・契約という形をとって行われることになっているが、今回の協働事業が市民と行政が対等の立場で行う初めての試みであることから、行政と事業者の間の責任分担を明確に整理して協定締結というところまで到達していない。そのため従来型の責任分担となってしまうというのが現状である。

協定締結の際に相談して解決できなかった部分などを具体的に記録に残し、責任分担などについても、今日のような公開の場においてみんなで考えていきたい。

課題はいろいろあるが、今日のような機会を利用して少しずつ考え方を発展させていきたいと思う。

16 : 20

### **提案募集説明**

2004 年度、第 2 回目の協働事業提案の募集について、事務局からの説明です。

提案募集の受付期間は、5 月 1 日（日）～5 月 31 日（月）。提案書式等の書類は市民活動課で受け取ることも、ホームページからのダウンロードも可能になっています。また、協働事業提案には、事前の登録あるいは提案と同時の登録が必要であるため、登録についての説明もありました。

その後の予定として、

- ・ 公開プレゼンテーション 6 月 13 日（日）
- ・ 公開検討会 7 月 18 日（日）
- ・ 推進会議からの提言 8 月中
- ・ 市長の検討結果説明 9 月中

### **まとめ**

この大和市の取り組みは、推進会議の林代表もいわれたように、市民と行政が対等で協働を進める初の試みといえるものです。今回参加された皆さんからの意見等を最重要検討課題として、よりよい大和市をつくっていけるよう、検討をさらに重ねていかなければなりません。それには市民も行政もみんなで力を合わせていく必要があります。

また、9 つの事業が動き出したことになりましたが、まだまだ協働事業としては始まったばかりです。事業を提案し、活動をされている方々も手探りの部分が多く、これから提案してみようという人にはわかりにくい点もあるかもしれません。しかしながら、この制度の特長は、みんなで知恵や力を出し合いながら、育て、ともに成長していくところにあります。今後の展開はもちろん楽しみですが、一緒につくりあげる喜びを分かちあっていける制度となるよう、みんなで行ってみたいものです。

一緒に新しい公共、大和市をつくっていきましょう。